

第 15 回ガス WG 会議

資料 4 熱量バンド制に関する議論についての 山野の意見

燃料機器への影響調査及び機器対策コストについて、事務局におかれましては佐藤オブザーバーからの既存機器の置換えサイクルに合わせて移行する事で、一定程度抑えられるのではないかとの考えに従い、p23の表にあるように10、20、30年、熱量標準、熱量バンドの計9通りの試算を詳細にして頂き感謝します。

残念ながら移行ランニングコストの削減可能なのは熱量引き下げのみで、これも費用対効果は移行期間20,30年の長期に渡り、投資回収は60年強と投資としては通常では考えられないレベルで、熱量バンドに至っては逆に毎年のランニングコストが悪化してしまっている。

熱量調整しないガスを導入することが、ガス料金を下げる事になるという新規参入者からの意見だが、社会全体ではコストアップになってしまう。

また産業界としては、特にガスの熱量変化が大きく品質に影響する浸炭用やガラス業界では、熱量バンド制に変更される前に、熱量調整設備導入を終え十分な品質確認テストを実施する事が必須で大きな負担と、装置を設置できない企業がある事を考慮すると熱量バンド制移行には強く反対する。

一方でカーボンニュートラルは大きな社会的課題でもあり、ガスも水素、メタネーション、バイオガス等が進むと熱量が下がる方向に行くので、熱量の下げ幅、時期についてコストや技術面に絞って議論をしてはどうか。